

御製 五首

平成二十三年

東日本大震災の津波の映像を見て

黒き水うねり広がり進み行く仙台平野をいたみつつ見る

東日本大震災の被災者を見舞ひて

大いなるまがのいたみに耐へて生くる人の言葉に心打たるる

東日本大震災後相馬市を訪れて

津波寄すと雄々しくも沖に出でし船もどりきてもやぶ姿うれしき

共に喜寿を迎へて

五十余年いそよとせあ吾を支へ来し我が妹いもも七十七ななとせななの歳迎へたり

仮設住宅の人々を思ひて

被災地に寒き日のまた巡り来ぬ心にかかる仮住まひの人

御製 五首

平成二十三年

東日本大震災の津波の映像を見て

黒き水うねり広がり進み行く仙台平野をいたみつつ見る

この御製は、本年三月十一日の東日本大震災発生に当たり、被害の状況を御心配になり、テレビをご覧になった時のことを詠まれたものである。

東日本大震災の被災者を見舞ひて

大いなるまがのいたみに耐へて生くる人の言葉に心打たるる

天皇后両陛下は、東日本大震災の被災者お見舞いのため、被災地や各地に設けられた避難所を御訪問になった。この御製は、その時のことをお詠みになったものである。

東日本大震災後相馬市を訪れて

津波寄すと雄々しくも沖に出でし船もどりきてもやふ姿うれしき

東日本大震災の時、福島県相馬市においては、地震後直ちに船を沖合へと避難させることにより、多くの船が無事に港へと帰ってくるこどができた。この御製は、本年五月十一日に御訪問になった相馬市において、この説明をお聞きになり、戻ってきた船をご覧になった時のお気持ちを詠まれたものである。

共に喜寿を迎へて

五十余年^{いそよとせあ}吾を支へ来し我が妹^{いも}も七十七^{ななとせなな}の歳迎へたり

本年十月二十日、皇后陛下は七十七歳のお誕生日をお迎えになり、
両陛下とも七十七歳におなりになった。この御製は、御成婚後皇后陛下
下と共にお過ごしになった日々を振り返ってお詠みになったものであ
る。

仮設住宅の人々を思ひて

被災地に寒き日のまた巡り来ぬ心にかかる仮住まひの人

この御製は、再び厳しい寒さが訪れる被災地において、仮設住宅な
ど住環境が十分でないところに暮らす人々にお心をお寄せになり、お
詠みになったものである。

第六十二回全国植樹祭

和歌山県

県木のうばめがしの苗植ゑにけり田辺の会場雨は上がりて

第六十六回国民体育大会

山口県

山口と被災地の火を合はせたる炬火持ちて走者段登り行く

第三十一回全国豊かな海づくり大会

鳥取県

鳥取の海静かにて集ふ人と平目きじはたの稚魚放しけり

皇后陛下御歌 三首

平成二十三年

手紙

「生きてるといいねママお元気ですか」
文ふみに項傾うなかぶし幼な児眠る

海

何事もあらざりしごと海のありかの大波は何にてありし

この年の春

草むらに白き十字の花咲きて罪なく人の死ゆにし春逝ゆく

皇后陛下御歌 三首

平成二十三年

手紙

「生きてるといいねママお元気ですか」文ふみに項傾うなかぶし幼な児眠る

東日本大震災に伴う津波に両親と妹をさらわれた四歳の少女が、母に宛てて手紙を書きながら、その上にうつぶして寝入ってしまったている写真を新聞紙上でご覧になり、そのいじらしさに打たれて詠まれた御歌。なお、少女の記した原文は、「ままへ。いきてるといね おげんきですか」。

海

何事もあらざりしごと海のあり かの大波は何にてありし

お見舞いのために御訪問になった被災地で、今はもう何事もなかったかのように穏やかな海をご覧になり、町や田畑を壊し、多くの人命を奪ったあの津波はいつたい何であったのかと訝るお気持ち詠まれている。

この年の春

草むらに白き十字の花咲きて罪なく人の死にし春逝ゆく

御所のお庭に春から夏にかけて咲くドクダミの白い十字の花をご覧になり、災害により多くの人を失ったこの年の春を思っ詠まれた。